

中学校国語

A問題 平均正答率：73.5%（全国：75.8%） 平均無解答率：2.7%（全国：2.6%）
 B問題 平均正答率：63.6%（全国：65.8%） 平均無解答率：2.7%（全国：2.2%）

結果チャート

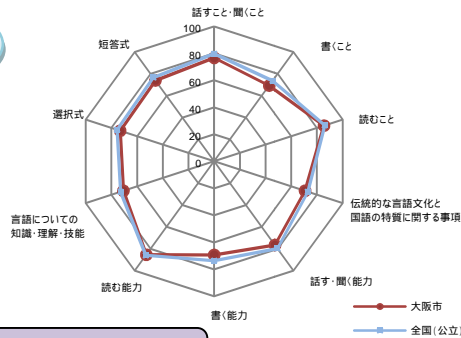
領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

A問題では、「書くこと」「書く能力」の項目で低い値を示しています。

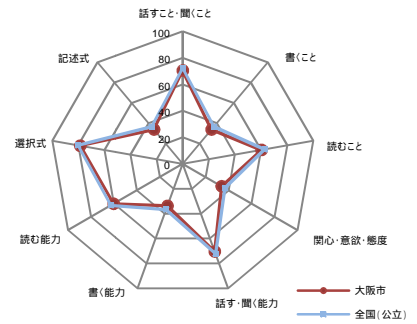
平均正答率及び平均無解答率については、P.2,3の表を参照のこと。

B問題では、「書くこと」「記述式」等の項目で低い値を示しています。

国語A



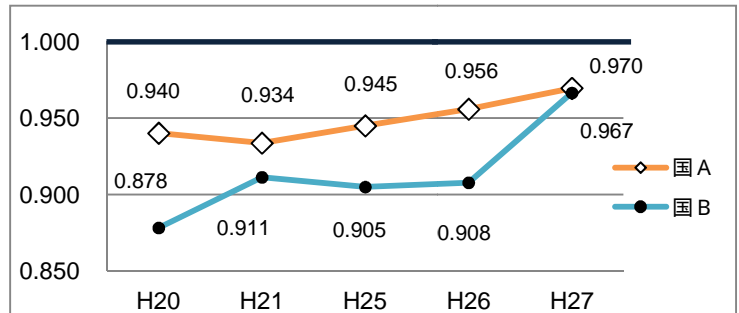
国語B



対全国比経年比較

対全国比については、悉皆調査の平成20, 21, 25, 26, 27年度を取り上げています。

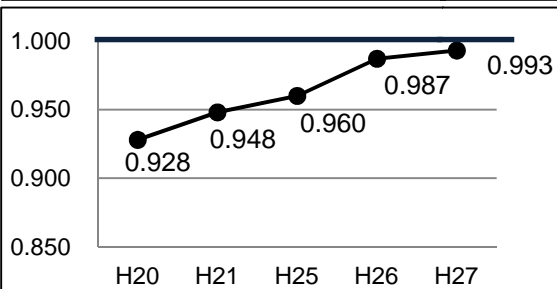
グラフは、全国の平均正答率を1としたときの国語A・国語Bの大阪市の割合を表したものです。



主として知識に関する「読むこと」にがんばりが見られます

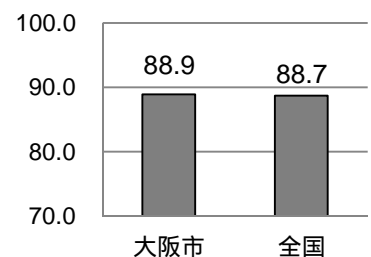
国語A「読むこと」領域の問題に改善が見られます。

国語A「読むこと」領域の問題の対全国比



登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する問題の正答率

一人も返事をしたものがなかった理由として適切なものを選ぶ問題（A3二）



授業では、読む習慣を付ける指導が行われています。

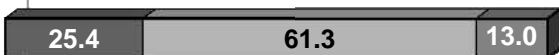
学

様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った(肯定的回答 大阪市:92.5% 全国:86.7%)

大阪市



全国

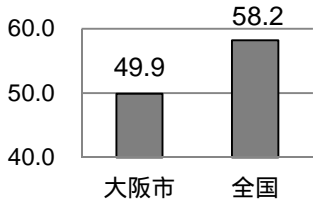


- よく行った
- どちらかといえば、行った
- あまり行っていない
- 全く行っていない

肯定的な回答が全国を上回っています

手紙の基本的な形式に込められた意味を理解することに努力が必要です

手紙の書き方を理解して書く問題の正答率



手紙の後付けの書き方を理解しているかの問題 (A[9]六)

肯定的な回答が全国を下回っています

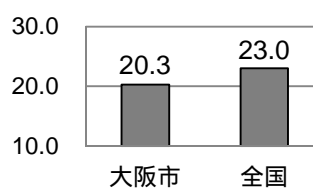
生

国語の授業で学習したことは、将来、社会に役立つと思う
(肯定的回答 大阪市:82.1% 全国:84.2%)



多様な情報に触れながら自分の考えをもつことに努力が必要です

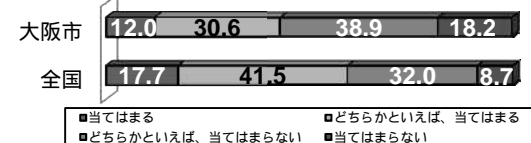
資料を活用して適切に説明する問題の正答率



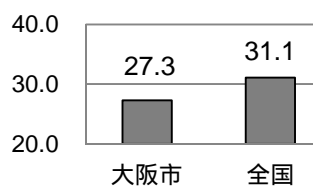
資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く問題 (B[2]三)

生

目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている
(肯定的回答 大阪市:42.6% 全国:59.2%)



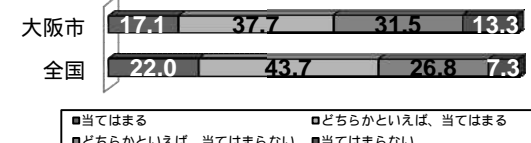
文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く問題の正答率



文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く問題 (B[3]三)

生

自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている
(肯定的回答 大阪市:54.8% 全国:65.7%)



学校で

- ・ 複数の資料から適切な情報を取り出し、それらを関連させながら自分の考えを具体的に書く力を育みます。
- ・ 読書タイムや朝の一斉読書の時間を設けるなど、読書習慣の形成を図ります。
- ・ 言語活動の充実を図り、根拠を明確にして分かりやすく説明する力を育みます。
- ・ 習熟度別少人数授業を通して、学習への意欲を高めるとともに、一人一人の習熟に合った指導を進めます。
- ・ 「学習教材データ配信」などを活用し、漢字や語句の意味など、基礎的・基本的な事項の定着や知識を活用する力を育みます。

家庭で

- ・ ニュースを基に会話を広げましょう。
- ・ 日々の発見や感動した出来事などを書く機会をつくりましょう。
- ・ お世話になった方に改まった表現や漢字を適切に使って手紙を書きましょう。
- ・ 家族で感銘を受けた本などを互いに紹介し合う時間をつくりましょう。

効果があった取組例

- ・ 授業の始めに5分程度の読書活動を継続的に行っています。
- ・ 机間指導を行い、個々の生徒の活動に対して積極的な励ましや声かけを心がけています。
- ・ 習熟度別少人数授業において、個に応じた指導の充実を図っています。
- ・ 授業の中で、積極的な発言を促すとともに、グループでの話し合い活動や学級全体での発表の場を設定し、言語活動の充実を図っています。
- ・ 全校集会や学年集会での講話・連絡事項などを振り返り、字数を決めて書きまとめる活動を取り入れています。

大阪市の取組

「言語力や論理的思考能力の育成」(P.44)「習熟度別少人数授業の実施」(P.44)
「学習教材データ配信」(P.45)「学校図書館活性化事業・学校図書館活用推進事業」(P.46)

課題と指導のポイント

調査問題の中で大阪市の子どもたちの平均正答率が特に低い問題
 全国と比べて平均正答率の差が大きい問題
 大阪市として継続して課題がみられる問題

【国語A】(主として「知識」に関する問題)

課題 手紙の書き方を理解して書くこと

9六 **設問の概要** 手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する。
 [正答率 大阪市:49.9% 全国:58.2%]

学習指導要領における領域 [第1学年] 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

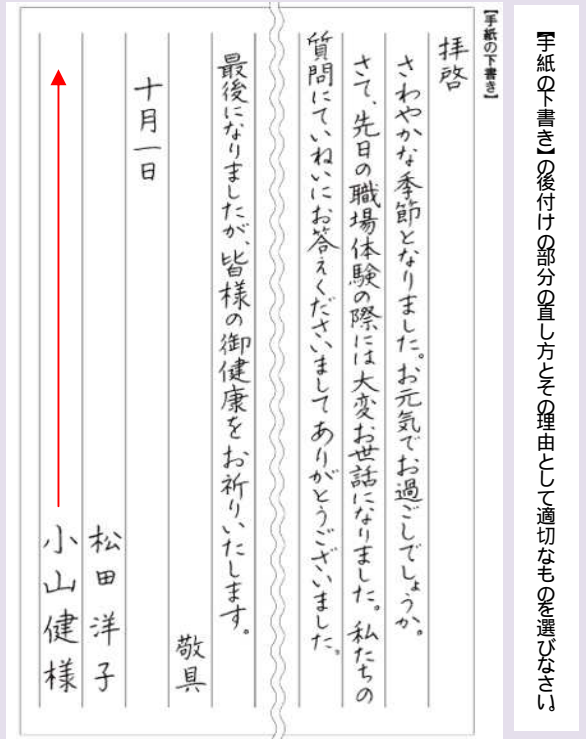
指導のポイント

手紙を書く際には、伝える相手の立場や気持ちに配慮し、手紙の基本的な形式を理解して書く指導を工夫する

実用的な文章としての手紙を書くことは、学校教育の中においても重要である。目的や意図に応じ、内容を明確にし、相手に応じて適切に敬語を使いながら書くことは重要である。

さらに、手紙の形式に込められた相手への敬意についても考えさせることが重要である。例えば、各教科などで、依頼状や礼状などを実際に書くなどの学習活動が有効である。

正答 相手に敬意を示すため、「小山 健様」は「松田 洋子」や「十月一日」より高い位置に書く。



手紙の「書き」の後付けの部分の直し方とその理由として適切なものを選びなさい

課題 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

9三 **設問の概要** 適切な語句を選択する。
 イ 彼がこの討論の口火を切った。 [正答率 大阪市:50.2% 全国:55.5%]
 エ 彼女は、学級の縁の下の力持ちと言える存在だ。 [正答率 大阪市:61.0% 全国:70.8%]

学習指導要領における領域 [第1・2学年] 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

指導のポイント

場面に即した語句・語彙指導を工夫する

語句の意味について理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、文脈に即して意味を捉えるように指導することが大切である。特に、日常生活で使うことの少ない語句について指導する際には、実際に使われている場面を取り上げてその意味を確認し、短文を作ったり、別の表現で言い換えたりする学習活動が有効である。

また、誤った意味で使われやすい言葉や、使い分けが紛らわしい言葉を指導する際には、語句の意味や用法を具体的な場面を合わせながら学習させることが大切である。

最も適切な言葉を()の中から選びなさい
 イ 彼がこの討論の()火種 2 点火 3 火薬
 (口火)を切った。
 エ 彼女は、学級の()縁 2 床 3 板
 4 面()の下の力持ちと言える存在だ。

【国語B】(主として「活用」に関する問題)

課題

複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くこと

2三 設問の概要

資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く。
〔正答率 大阪市:20.3% 全国:23.0%〕

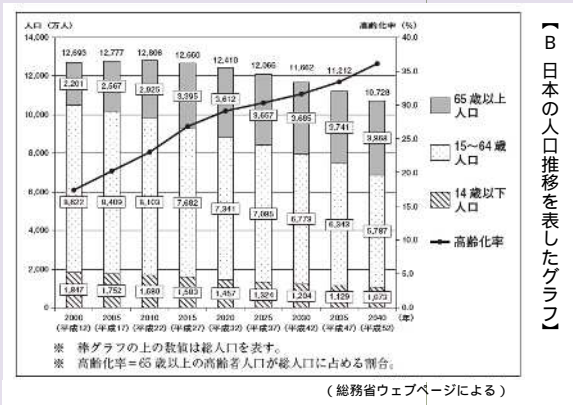
学習指導要領における領域

〔第2学年〕 B 書くこと C 読むこと

指導のポイント

多様な情報に触れながら、自分の考えをもつ指導の工夫をする

多様な情報に触れながら問題意識をもったり、新たな発想を得たりするためには、複数の本や資料から得た情報を自分と結び付けて考えることが重要である。その際、それぞれの資料に書かれていることを正確に理解した上で、感じたことや考えたことを他の人に話したり、文章に書いたりして、新たな気付きや問題意識を明らかにすることが大切である。



【B】日本の人口推移を示したグラフ

資料【A～C】の中から「それ」を選び、その内容をとり上げて、「2020年の日本は」に続けて、八十文字以上、百二十文字以内で書くこと。

資料【A～C】の中から「それ」を選び、その内容をとり上げて、「2020年の日本は」に続けて、八十文字以上、百二十文字以内で書くこと。

Discover Tomorrow

～未来(あした)をつかもう～

世界のスポーツ界が急速な変化や様々なチャレンジに直面する中で、東京は「素晴らしい大会を確実に開催し、オリンピックとパラリンピックの価値を次世代に受け継いでいく」ことを訴え、招致の成功を実現することができました。そのメッセージは、世界に約束できる3つの強みによって支えられています。

～後略～

(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ウェブサイトによる)平成27年8月

生活を支援するロボットの開発

世界では、様々なロボットの開発が進められている。例えば、人の移動を支援する搭乗型ロボット。このロボットの中には、10年以上前から実用化されているものもあり、空港でパトロールなどに使われている。

搭乗型ロボットの例

～後略～

【C】雑誌の記事の一部

課題

文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くこと

3三 設問の概要

文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く。
〔正答率 大阪市:27.3% 全国:31.1%〕

学習指導要領における領域

〔第1学年〕 B 書くこと 〔第2学年〕 C 読むこと

指導のポイント

文章の展開について、根拠を明確にして自分の考えをもつ指導を工夫する

文学的文章は、文章の展開の工夫が面白さの要因の一つとなっていることがある。文章の展開について自分の考えをもつためには、作品の全体像を捉えた上で、場面の役割などを分析的に考える必要がある。例えば、この場面がなかったらどのように作品全体の印象が変わるかなどについて、根拠を示しながら書いたり、話し合ったりする学習活動が考えられる。その際、自分の考えを支える根拠が明確に示されているかどうかを検討することが大切である。

「お女中」
と男はできるだけやさしく口調でまた声をかけた。
「まあ、どうか、私の言うことをお聞きなさい」
……
「さあ、それと同時に、屋台の火も消えた」といって最後の一文は、あだ方がよいか、ない方がよいか、話の展開を取り上げて、五十文字以上、八十文字以内で書くこと。
小泉八雲が英語で書いた怪談「貉」の翻訳の一部
「こまでのあらすじ」東京の赤坂にある紀伊国坂は昔、日が暮れた後は人通りが少なく寂しい場所であり、人が化かす「貉」といって生き物が出没すると言われていた。そのため、人々は日没後、一人でこの坂をのぼるよりも、回り道をしたものだ。ある日の夜、急ぎ足で紀伊国坂をのぼっていた一人の男が、お濠のそばで若い女がうずくまっていたのを見て、男は心配して若い女に声をかけたが、返事はない。
「お女中」
と男はできるだけやさしく口調でまた声をかけた。
「まあ、どうか、私の言うことをお聞きなさい」
……

授業の改善・充実を図る際の参考事例

「平成27年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイデア例」P.3～8
国立教育政策研究所ウェブサイト <https://www.nier.go.jp/jugyourei/h27/idea-03.html>